

向井潤吉

早春の景色を求めて



ふもとの老樹(山梨県北巨摩郡小淵沢町) 1969年

1998年1月6日[火]—3月29日[日]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日—毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

65歳以上及び障害者の方100円(80円) ()内は20名以上の団体料金

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

向井潤吉・早春の景色を求めて

向井潤吉先生は民家を描き始められた当初、草屋根の民家という日本古来の伝統的な建築、その造形に興味の中心がおかれていましたが、旅を重ね、制作を重ねる中で、民家を単なる建築物と捉えているだけでは、民家というものの本質に迫り得ないことを、感得されていきました。つまり向井先生は、日本という風土の中で育まれてきた、この独特な草屋根の民家という建築物は、人間が自然と共生して行くために、重要な役割を果たしていることを、見いだされたのだと言えましょう。

それは気候や植生などの自然環境という条件による面ばかりでなく、日本人の生活形態や習俗、そして日常から生まれてくる知恵が、長い歳月をかけて民家という形を整えてきたことを、先生が実感をともなって深く理解されていったことを意味しています。

向井先生は、このような民家に対する接し方や考え方の変遷を経ながら、季節ごとにさまざまな表情をみせる民家に、より深い愛着を持たれるようになっていきます。

こうしたことから、向井潤吉先生が民家を描くにあたっては、その取材地の選定と同時に、季節を選ぶことがとても重要な意味をもつようになったと思われる。

先生の制作日誌からも、また生前に記された諸文献からも、先生が民家を取材するには春と秋が相応しい季節であると、考えられていたことがうかがわれます。

とりわけ春は、山間部では白い帯を広げたように残雪が山肌に残り、その一方、里では田植えを待つ水田が清冽な水を湛え、そして畦道が緑に染まり、木々の新緑は生命の息吹を感じさせ、四季の中でも自然が最も表情を豊かにする季節であると言えます。

このたびの展覧会では、向井先生が春に取材、制作された作品の数々をご紹介しますと同時に、農村での人々の日常をとらえた素描作品を展示いたします。



春塘(埼玉県川越市郊外) 1984年



春叢(埼玉県東松山市神戸) 1988年



湖東の家(滋賀県愛知郡湖東町) 1989年頃



春峯(岩手県上閉伊郡宮守村) 1976年



制作風景



不詳(鳥作業) 1955年頃

世田谷美術館
向井潤吉アトリエ館
〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

●最寄り交通機関のご案内

東急新玉川線【駒沢大学】 駅西口 下車/徒歩10分

東急世田谷線【松陰神社前】 駅 下車/徒歩17分

東急バス(流05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分

東急バス(等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分

東急バス(流11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

東急バス(流13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

